



日本共産党文京区議会議員

mandatedachi 幹夫 通信

2008年11月21日号 No.75

みなさんをいつもまんやかに

区議団控室：5803-1317 (直通)

萬立幹夫事務所：文京区小石川2-23-7

・fax 3868-8355

メール：mandachi@jcp-bunkyojugidan.gr.jp

《このニュースは区議団ホームページ http://www.jcp-bunkyojugidan.gr.jp/でもご覧いただけます》



妊婦の受け入れ拒否で悲惨な事件が都内で起きました。区内の分娩施設を問うたところ、施設は5病院、1助産院ですが、ベッド数は「産科のみのベッド数はわかりません」との答弁でした。先の事件では、東大、順天

十七日から第四回定例議会が始まりました
くらしと営業の支援を 再開発事業の見直し
安心して子どもが産める母子医療体制を
図書館の「指定管理者制度」導入はやめよ
今週から始まった定例議会の代表質問一日目の19日、日本共産党からは島元雅夫団長が質問に立ちました。
麻生内閣のもとで区民の暮らしは大変。区の「景気対策本部」の役割について、まず質問しました。国の原材料価格高騰対応緊急保証の業種の拡大により、区でもこの間、経営相談が6倍に、不況業種認定が一日30件を超えるまでになっているそうです。これまでは一ヶ月に15件程度だったといつから驚きです。

どこが「介護の社会化」？ “給付適正化”で悲鳴

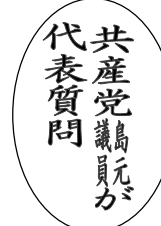
先日行われた区と「社会保障推進協議会」での懇談の中で、こんな発言があったそうです。

...「同居している介護度4の実母を介護し、障害児の子どもを学校に連れて行く日常生活に加え、近くに住んでいる夫の母が介護度1になった。ヘルパーをお願いしたが歩いて10分以内の距離なので同居とみなされ認められなかった。『お昼はお弁当をとったらどうですか』と言われた」...

なんともやりきれなくなります。介護「給付の適正化」でこのように必要な介護が減られる例は多いのです。来年の制度見直しで改善をもとめていきます。



そのほか、東京都がそして区も推し進める認証保育園の突然の閉鎖問題(都内二十数か所で保育所、児童館など運営する企業が突如撤退)への区の態度を質問。それでも区は「認証保育所の(役割の重要性を高く評価しております」と強弁しました。来週からは各委員会での論議です。



まんがで目録

- 15日 午前 本郷台中学校の開校10周年記念式典へ。「卒業生代表あいさつ」で統合時の苦労が伝わってききました。「うまく溶け和えられるか」生徒たちが悩みながら新校をつくっていったことがわかりました。(右写真)
午後「ボランティアまつり」に顔を出し、夜は党支部の会議
16日 午前 駕籠町小学校50周年記念式典。元氣な児童の歌声が体育館に響いていました。
17日 本会議初日の後、「蘇る赤ひげ先生」と題する、あの赤ひげの17代「子孫の小川明氏の講演を聞きました。

